

# 広島県における社会教育委員研修の 企画・運営の実際

広島県立生涯学習センター 社会教育主事

松田 愛子

## はじめに

広島県では、広島県社会教育委員連絡協議会（以下、「県社連」という）と県教育委員会が共催し、平成22年度から毎年1回、県内の社会教育委員が一堂に会し、相互の連携を深め、社会教育の振興充実に資することを目指すことを目的に、「広島県社会教育委員研修会」を開催している。令和元年5月現在の県内市町の社会教育委員の実人数は306人（1市町平均13人）であり、そのうちおよそ半数の150人を定員としている。本稿では、この「広島県社会教育委員研修会」の開催に至った経

緯や、研修会の様子、本県の特徴ある取組である「地域課題対応研修支援（訪問型研修）」、これまでの成果や今後の課題・展望について報告する。

### 一 「広島県社会教育委員研修会」開催の経緯

本研修会の前身は、「広島県社会教育研究大会」である。この「研究大会」は、さらにその前身に当たる、「地区別社会教育委員研究協議会」を経て、昭和56年度から県内7地区の持ち回り運営により、社会教育委員のみならず、他の社会教育関係者を含めた全県的な社会教育の「研究大会」として、平成21年度までに29

回開催されてきた。研究主題は、当時の社会情勢や地域の課題が色濃く反映されたものとなっている。

こうした中、「平成の大合併」等により、設立当時100を越えていた市町村が23に減少、これに伴い、県内の社会教育委員数も1300人超から300人程度に激減したことにより、女性会や老人会といった他の社会教育関係者が、主対象である社会教育委員より多い状況となるとともに、各地区の「事務局」としての負担が増え、大会の運営そのものが問題視され始めるようになった。このため、様々な協議のうえで、新たに「社会教育委員の研修」に焦点を絞り再構築することとし、県社連の研修活動として「研修会」を開催、その企画・運営は、県内の生涯学習・社会教育関係者の研修（人材育成）を主管する「広島県立生涯学習センター」（広島県教育委員会）が研修支援として参画することとなり、現在に至る。このことにより、「社会教育委員の研修」が活性化されるだけでなく、社会教育関係者の力量形成をバックアップする専門性の高い「研修センター」としての「広島県立生涯学習センター」の機能の活用促進や研修の企画・運営ノウハウの構築が図られている。

## 二 社会教育委員の研修の実際

### （一）広島県社会教育委員研修会

「広島県社会教育委員研修会」は、平成22年度から開催し、今年度で10回目を迎えた。各年の研修テーマは、社会教育委員自身の学習ニーズや課題意識等を調査したアンケート結果を踏まえ、「社会教育委員の役割」という基本テーマを中心に、地域の教育力向上や家庭教育支援、地域人材の育成（地域づくり）、貧困問題や社会的包摂の実現など、現代的・社会的な課題や、社会教育に係る喫緊の課題に関するものを設定している。プログラム内容は、テーマに応じた基調講演とあわせ、社会教育委員の実践の交流や学び合いを重視し、平成29年度までは「分科会」形式で、平成30年度からは、新たな試みとして「トークセッション」形式で、実践発表や意見交流を行っている。（表1）

振り返りアンケートでは、例年、ほぼ90%以上の参加者が今後の活動への役立ち感を得ており、研修の場は、社会教育委員としての役割の意識づけや、今後の活動のヒントを得られるよい機会となっていることが伺える。

本年度は、令和元年6月5日（水）、竹原市民館を会場として、「人口減少時代の新しい地域づくりに向



トークセッション



基調講演

表1 主なプログラム「広島県社会教育委員研修会」

年度	講演テーマ	形態
平成22	社会教育行政における社会教育委員の役割	講演、分科会 (①家庭教育支援②学校支援と放課後対策③公民館振興)
23	地域の教育力と社会教育	講演、分科会 (①家庭教育支援②地域の教育力向上③公民館等の振興)
24	少子高齢社会対応と社会教育の役割	講演、分科会 (①社会教育委員の役割②家庭教育支援③地域の教育力向上)
25	(研究主題) ※ 持続可能な社会の構築に向けたこれからの社会教育の在り方	講演、分科会 (①社会教育委員の活動②学校・家庭・地域の連携③家庭教育支援④人権教育の推進)、パネルディスカッション
26	東日本大震災と社会教育	講演、分科会 (①社会教育委員の役割②家庭教育支援③高齢者教育)
27	おの100挑戦隊	講演、分科会 (①家庭教育支援②地域の教育力向上③人材育成・キャリア教育)
28	つながりが創る豊かな家庭教育支援を目指して	講演、分科会 (①社会教育委員の役割②地域の教育力を活用した教育支援③親の育ちを応援する学びの機会の充実)
29	地域の教育力を高める社会教育委員の役割	講演、分科会 (①主体的な学びを育てる地域づくり②子供の育ちを応援する機会の充実③地域の教育力を活用した教育支援)
30	子供の貧困と社会教育	講演、トークセッション (社会的包摂の実現に向けた社会教育の役割)
令和元	人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の在り方	講演、トークセッション (人づくり・つながりづくり・地域づくりを進める社会教育の役割)

※平成25年度は、第36回中国・四国地区社会教育研究大会広島大会と兼ねて開催

けた社会教育の在り方」をテーマに、香川大学地域連携・生涯学習センター長・教授の清國祐二先生を講師に招き研修会を開催した(参加者150人)。「トークセッション」では、清國コーディネーターのもと、県内市町から4名の社会教育委員が登壇し、人づくり・つながりづくり・地域づくりを進める社会教育委員のミッションをテーマに、それぞれの立場から事例が提供され、その後、取組の共通項をもとに、フロアーの参加者も一緒になり、全員でテーマについて協議を深めた。コーディネーターからは、行政(事務局職員)と社会教育委員の連携の必要性や、学校・関係団体・家庭教育関係などの代表として選出されている委員は、自らの選出団体の利益だけでなく、自治体全体の社会教育のビジョン(未来の姿)を考えて熟議を進めることが重要である等の助言があった。

## (二) 地域課題対応研修支援(訪問型研修)

地域課題対応研修支援(訪問型研修)は、各市町の実態やニーズに応じ、市町主催の研修の企画・運営を総合的に支援する、当センターオリジナルの取組である。この事業を活用し、県内市町の社会教育委員の研修の活性化が進んでいる。例えば、本年度、山県郡北

広島町では、社会教育委員の会議とあわせて、社会教育委員・関係職員合同の研修会が開催された(10月)。本研修では、当センターの社会教育主事(筆者)がコーディネーターを務め、「国・県の動向」等について基本的な講義を行った後、グループに分かれて、町の喫緊の行政課題の一つである「これからの地域づくりセンター(公民館)を考える」をテーマとし、意見交流を行った。町の担当職員による軽快な司会進行や「アイズブレイク」の工夫など、普段の「会議」とは異なる和やかで自由な雰囲気のもとで、公民館を拠点とした学びから始まる地域づくりの実現に向けた様々なアイデアが生み出されることとなった。

こうした取組により、全県的な研修では対応が難しい、きめ細やかな支援が可能となり、社会教育委員を対象とした研修の機会が、質・量



北広島町社会教育委員・関係職員合同研修

ともに充実してきていると捉えている。社会教育委員の会議が、承認のみの「シャンシャン会議」から脱却し、政策提言に向けた、委員の自主的・主体的な話し合いや活動につながることを期待される。

### 三 成果と課題

以上のような、地道な研修・取組の積み重ねのうえに、本県においても「行動する社会教育委員」の動きが少しずつ進んでいる。

例えば、三次市では、委員間での話し合いを重視し、少人数での自主的な会議や勉強会等を軸に、住民アンケートの実施、それを基にした提言、市との連携による具体的な活動（事業化）への発展等、精力的な活動が継続的に行われている。

また、安芸郡府中町においても、社会教育委員の会議からの提言「府中町における家庭教育のあり方」を受けて、地元の「カープ球団」とのコラボレーションにより、マスコットキャラクターのイラストが載った「子育てメッセージ」のステッカーを作成



ステッカー（府中町）

し、各家庭に配布するなど、ユニークな活動が始まった。こうした活動の展開が、県内全域で共有され、広がり、社会教育活動の充実・実践に生かされていくよう、社会教育委員研修の企画・運営のさらなる改善や新たな仕組みづくりを検討していきたい。

### おわりに

私が座右の銘としている言葉の一つに、「事件は会議室で起きているんじゃない。現場で起きているんだ」（映画『踊る大捜査線』の中で織田裕二扮する青島（地）をつなぐ「社会教育委員」の研修の企画・運営を通して、私自身も現場の風を感じる事ができている。今後も「現場主義」をモットーに、県の社会教育主事としての責任を果たし、市町の皆さんとのつながりの中で、有効な成果を生み出していきたい。社会教育の現状は決して追い風ではなく、対応しなければならぬ課題も山積みだが、「逆境を逆手に取る」という発想もある。様々な課題について、地域住民とともに、熟議し、汗をかき、地道に解決していこうとするプロセスの中にこそ、本当の宝があるのではないだろうか。今こそ、社会教育委員の出番です！

（まつだ あいこ）